

米ハイテク株の年初の調整をどう考えるか？



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① NASDAQ100は5営業日続落

4日の米国株式市場では、ハイテク株主体で構成されるNASDAQ100が5営業日続落となり、その間の下落率は3.7%となりました。もっとも、同指数は昨年53.8%上昇していることから、足元の米ハイテク株の下落は昨年に大きく上昇したことによる反動という側面が強いとみられます。

実際、米ハイテク株を取り巻く環境は良好といえます。米PCE物価指数（23年11月分）の6か月間の変化率の年率ベースは2.0%の上昇となったほか、同コア物価指数の同年率ベースは1.9%の上昇となっており、FRB（米連邦準備制度理事会）の物価目標の2%程度にまでインフレの勢いは鈍化してきました（右上図）。このようにFRBの利下げ環境が整いつつあることを考えると、米長期金利の過度な上昇は抑制されるとみられ、バリュエーション面で米ハイテク株の下値を支えと考えられます。

ポイント② 決算発表が米ハイテク株のカギを握る

一方、世界最大の時価総額を誇る米アップルの株価が昨年12月の最高値から8%超下落しており、米ハイテク株に対する業績不安を表しているといえます。

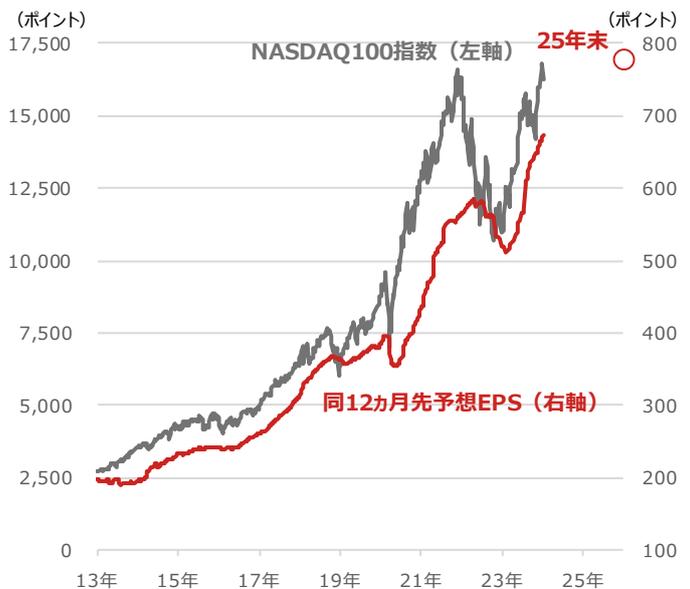
ただ、米ハイテク株の業績は良好さを維持しています。生成AI（人工知能）の普及が一段と本格化していくと想定されることや、世界的なテクノロジーサイクルの底入れ反転機運が高まっていることなどを考慮すると、米ハイテク株の現時点の利益見通しは実現確度が高いと考えられます。中長期的に株価は業績に収れんするとの見方に立てば、米ハイテク株の調整は一時的ともいえます（右下図）。米ハイテク株が再び上昇基調に回帰するには、1月半ばから本格化する決算発表が市場の過度な不安を払拭する内容となるかが焦点となりそうです。

米PCE（個人消費支出）物価指数とコア物価指数の6か月変化率の年率換算値



期間：2013年1月～2023年11月、月次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

NASDAQ100と 同12か月先予想EPS（1株当たり利益）



期間：2013年1月4日～2024年1月4日、週次
・○印は2025年末のBloomberg予想（2024年1月4日時点）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格の上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。